

Team Morioka
平成23年度中間とりまとめと
今後の方向性

モクアオイ: 葵科、ハナアオイ属

平成23年10月31日

チームもりおかの取り組みと今後の予定

赤字は今後の予定

1:在宅ケアワーキング委員会の設置

①委員構成 *カッコ内は推薦団体名

事務局 ・医師1名 ・看護師1名 ・MSW1名 ・事務員1名

委員 ・医師1名(盛岡市医師会)

・ケアマネージャー3名

(岩手県地域包括・在宅介護支援センター協議会)

(盛岡地区地域包括・在宅介護支援センター協議会)

・訪問看護師2名

(岩手県看護協会・岩手県訪問看護ステーション協議会)

・訪問薬剤師1名(盛岡薬剤師会)

・訪問理学療法士1名(岩手県理学療法士会)

・訪問介護従事者1名

・盛岡市高齢者支援室担当者1名

②在宅ケアワーキング委員会の開催状況

日 程	主な議題
6月1日(水)	顔合わせ、在宅医療連携拠点事業の趣旨説明・事業内容説明
7月7日(木)	研修会(多職種情報交換会)の詳細検討・課部門別課題の今後の取り組み
9月7日(水)	医療・介護資源実態調査の検討
11月9日(水)	行政担当官との意見交換会の詳細検討
2月1日(水)	在宅医療の市民への啓蒙に関する詳細検討
2月29日(水)	総括

2:地域の課題分析のための取り組み

① 在宅医療・介護従事者アンケート調査

●目的

在宅医療・介護従事者が感じている連携上の課題(見えない壁)を知る
医療・介護従事者の負担軽減のための支援策を知る
クラウド型電子カルテシステムが多職種連携に果たす役割を知る

●対象

盛岡市・矢巾町の一部の在宅に関わる医療・介護従事者

●方法

アンケート調査票を郵送により配布、返信用封筒にて回収

●回収結果

配布数	1,156部
回収数	703部
回収率	60.8%

●調査の結果 <抜粋>

▼多職種連携の課題に対する解決策で支持を集めた支援策

- ・研修会(在宅医療に必要な知識、終末期の支援方法、緊急時の対応等)の実施。
- ・在宅医療の相談や医療的な対応が必要となった時、必要な助言が受けられる

▼在宅医療従事者の負担軽減に対する解決策で支持を集めた支援策

- ・主治医に連絡が取れないときのための緊急コール体制を整備する。
- ・入院必要時に入院ができる体制を確保する。

▼効率的な医療提供のための多職種連携(クラウド型電子カルテシステム)について

＜良い点＞

- ・チーム医療を提供するための情報共有体制ができる。
- ・チームの構成員がお互いに何をしているかを確認・再確認できる。

＜悪い点＞

- ・情報の流出が心配である。
- ・急激な変化の報告には対応が難しい。

▼在宅医療連携拠点事業(所)に期待すること

- ・往診や訪問看護等の医療系サービスを依頼する時の調整窓口になってほしい。
- ・訪問診療をしている医療機関の情報を提供してほしい。
- ・在宅医療を受けている患者の相談窓口を開設してほしい。
- ・在宅医療について市民の理解が深まるような活動をしてほしい。

② 医療・介護資源調査

施設と対象者	目的	調査方法
病院医療相談室勤務者 又は退院調整担当者	・病院～在宅のスムーズな移行へ向けた課題抽出 ・退院調整担当者の同職種連携促進のための基礎調査	インタビュー
地域包括支援センター 3職種	・在宅医療連携拠点事業の趣旨説明・事業内容説明 ・地域包括支援センターの実態把握 ・在宅医療連携拠点事業の位置づけを探る	インタビュー
高齢者対応施設アンケート調査 施設管理者又は代理者	・施設内での医療行為・看取りの実態把握 ・医療依存度の高い在宅療養者を地域でどのように支えていくかを検討する基礎資料とする ・法改正を見据えた、施設管理者の意識調査	アンケート調査 * 郵送による調査票の配布と回収 *

3:盛岡地域の状況

- ・盛岡市の人口 およそ30万人
- ・在宅で亡くなる方 総死亡者の 11.9%

- ・高齢化率 21.6%
- ・在宅看取り率(がん) 12.2%(H21年度)

盛岡市の介護保険事業所(平成21年7月現在)

施設種類	施設数
居宅サービス	821
居宅介護支援事業所	80
施設サービス ()は、ベッド数	30 (1,859)
介護予防サービス	821
地域密着型サービス	22
地域密着型介護予防サービス	21

もりおか往診クリニックと連携している事業所 (盛岡市以外の事業所との連携を含む)

事業所種類		事業所数
訪問看護	すべて 24時間対応可	16
訪問リハビリ		11
薬局	訪問薬剤 管理指導可	2
ケアマネージャー		118

盛岡市で訪問診療を行う医療機関

在宅支援診療所	30 (届け出数)	実際の稼働は???
在宅支援病院	2	

平成19年から「チームもりおか」という名の懇親会

地域連携の土台はある

国の方針 「病院から在宅へ」

「がんの方が在宅へ」
「医療依存度の高い方が在宅へ」

盛岡の課題

医療依存度の高い療養者の受け入れ先が不足

在宅医療の総合相談窓口がない

一般市民への在宅医療の啓蒙が不足

多職種連携のための研修会等が不足

在宅医が不足している。在宅医療への理解不足

4: 地域の課題抽出と解決に向けての取り組み

① 多職種合同カンファランス・研修会

日程	回数	主な内容	参加人数
7/27	第1回	・講演「口腔の重要性と多職種連携の今後」 ・グループワーク「在宅医療・介護の現状と多職種連携について」	109名
9/28	第2回	・講演「情報共有の一例～チームもりおか方式～」 ・グループワーク「情報共有システムに求めること」 「より使いやすい在宅ノートを作ろう」 ・勉強会「パソコンを操作して情報共有システムを学ぶ」	78名
10/26	第3回	・在宅医療～それぞれの役割を考える～講演及びディスカッション	116名
11/30	第4回	・在宅でできる治療とケア	
1/18	第5回	・施設での看取りを考える	
2/22	第6回	・行政担当者との意見交換会～チームもりおか～これからの方向性	

② スキルアップ勉強会・講習会

日程	内容	参加人数(合計)
通年	相互交流研修	集計未
8/31・9/1	胃ろうと薬の勉強会	40名
9/7・9/15・9/21	在宅医療におけるアロマの効用	62名
10/6・10/20	日常の口腔ケア	28名
11/2・11/16	パソコンを操作して情報共有システムを学ぶ	
12/4・12/18	吸引講習会（介護従事者対象）	

③ 在宅医療相談窓口

相談件数	14（平成23年7月1日～10月31日）
------	----------------------

④ 岩手県歯科医師会との連携

- 講演会、勉強会等の相互参加
- 歯科往診依頼書の活用促進

歯科往診FAX依頼書

(宛先：岩手県在宅歯科医療連携室FAX019-606-3047)

平成 年 月 日

依頼元 病院・事業所名
担当者氏名
電話番号

患者氏名(ふりがな) 性別 男・女 年齢 歳

要介護度状態 ①要支援 ②要介護1 ③要介護2 ④要介護3 ⑤要介護4 ⑥要介護5

患者住所 患者電話 かかりつけ歯科医師

ご依頼内容 (当てはまるところに✓をつけて下さい)

- ☐ 痛い歯がある、動く歯がある、歯ぐきのはれいている、むし歯がある
- ☐ 口の中に痰や汚れがべったり付いている、臭い、乾いている
- ☐ 入れ歯があたって痛い、粘膜に傷がついている
- ☐ 入れ歯が落ちやすい、合わない、破損している
- ☐ 入れ歯がない
- ☐ 食べる時や飲み込む時にむせる、食後ガラガラ声になる
- ☐ なかなか飲み込めない、食事に時間がかかる
- ☐ その他

お願い ・本人・ご家族から訪問歯科診療のご承諾をお願いいたします

020-0045岩手県盛岡市盛岡駅西通2-5-25

岩手県歯科医師会館(8020プラザ)内

岩手県在宅歯科医療連携室

TEL 019-606-3040 Fax 019-606-3047 フリーダイヤル 0120-8020-25

おもて

要介護の方の口が

以下のようになっていませんか？

お口の中

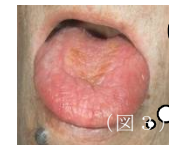
1. グラグラ動く歯がある、痛い歯がある
2. 口の臭いがひどい
3. 痰や汚れがべったり付いている、舌をべーっとできない(図1,2)
4. 舌が乾いていて、潤いがまったく無い(図3)



(図1)



(図2)



(図3)

カピカピで、乾燥している

入れ歯

1. バネが折れた、割れた(図4)
2. ゆるくてすぐ落ちる、合っていない、かめない、キズができて痛い(図5)
3. 歯が無いのに入れ歯を使っていない



(図4)



(図5)

あき
る
ず
が

飲み込み

1. 食べる時、飲む時にムセがひどい、食後、ガラガラ声になる
2. なかなかのみ込めないでいる、食事に時間がかかる

どれかに、当てはまる場合は、**歯科治療、ご相談、歯科往診が必要**と考えられます。
お気軽に、先ずご連絡ください。ご相談させていただきます。

うら

⑤ 情報発信

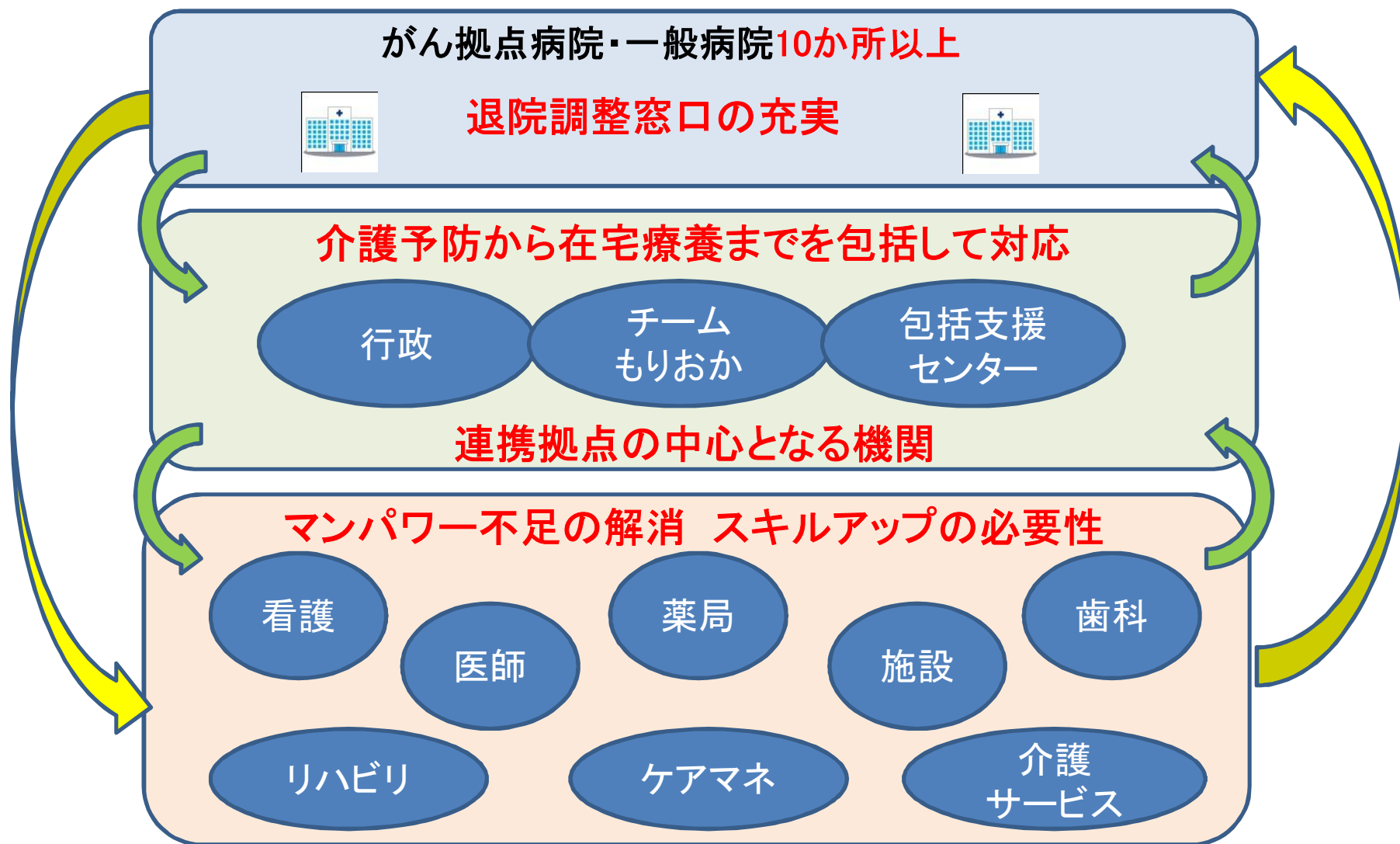
ホームページができました！



<http://www.mhcclinic.jp/TM/index.html>

4:まとめ

① 地域連携型モデル チームもりおか イメージ図



② 盛岡の在宅医療を支えるために必要なこと

- ①地域連携型モデルの構築
- ②情報共有体制の整備、強化
- ③医療・介護従事者のスキルアップ
- ④次世代の育成に向けた在宅医療の啓蒙活動
- ⑤一般市民へ向けた在宅医療の啓蒙活動
- ⑥総合相談窓口の整備

Key word

地域で取り組む在宅医療・介護連携

市民・行政機関・医療機関・介護サービス事業所等の
多職種の密接な関わりが重要